



三浦 瑠麗

株式会社山猫総合研究所
代表取締役

集中 OPINION

トランプ後の世界で日本はどうなる リスクを負って成長を目指す覚悟を

今年1月の米トランプ大統領の就任以来、世界は彼が口を開く度に大きく揺れ動いている。トランプ関税への対応で各国は様々な動きを見せ、ロシアによるウクライナ侵攻も、大きく状況が変わりつつある。日本も今後、関税交渉だけでなく防衛力や中国との関係等、トランプ大統領の政策への対応が大きな政治課題となるだろう。トランプ政権との向き合い方を含め、不確実性が増していると言われる現状に日本はどの様に対応していけば良いのか。第1次トランプ政権時に「トランプ現象」の分析で注目を集めた国際政治学者で山猫総合研究所代表の三浦瑠麗氏に、世界情勢と日本の今後の社会の在り方等について話を聞いた。

——2017年の第1次トランプ政権の発足時、

『「トランプ時代」の新世界秩序』（潮出版社）を上梓し、いち早く「トランプ現象」を読み解かれました。

三浦 15年にトランプ氏が登場して不法移民への急

進的なバッシングを展開し始めた時、日本人は「彼が大統領に就任したら大変な事になる」と過剰に反応しました。しかし、それがどういう事であるのか、メディアも政治家も正確なところは分析が出来ておらず、ざっくりとした理解だけで議論が進んでいました。この事態は今に至る迄変わっていません。そ

ろそろ、トランプ政権について本気で受け止め、理解しなければならぬと思います。

——そのトランプ大統領が再選しましたが、これを受け、日本の外交戦略はどうあるべきでしょうか。

三浦 基本的にトランプ大統領の貿易戦争は中国がメインターゲットで、保護貿易にシフトするというメッセージもかなり込められています。日本から見れば、未だ妥協の余地が有ると思います。それは日本が米国にとって重要な同盟国であるからで、安全保障上、中国より先に交渉を纏めなくてはならない。

そうした意味で、割と強気な交渉も可能でしょう。只、日本も関税交渉を契機に不合理的な事は見直していく必要があります。例えば、今、米の価格が非常に高騰している。需給予測を政

府が見誤ったわけですが、東の結末だと言

われますが、生産を止めてし

も多はコ

トランプ等外食

の輸入をも

にも利が有る

詳しくはホ

を組み合わせ

続きを読むには購読が必要です



ページをダウンロード